田尻町文化財調査報告　第４集

田尻町内遺跡詳細分布調査概要

2001．３

泉南郡田尻町教育委員会

はじめに

田尻町内には、今日まで10ヶ所の周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が確認されていました。

平成12年度において、大阪府市町村緊急地域雇用特別基金事業補助金補助事業として田尻町内の遺跡の所在を明らかにするための詳細な分布調査を本町教育委員会の指導のもと国際航業株式会社に委託して実施いたしました。

調査を実施した結果、新たな遺跡の発見には至りませんでしたが、対象としたほとんどの土地（主に耕作地）から土器のかけらが表面観察によって採集されました。本書は、その調査成果を取りまとめたものです。

本書が、広くみなさまに活用していただければ幸いです。

調査の実施に際してご理解・ご協力いただいた地元の多くの方々並びに関係各位にお礼申し上げます。

今後とも本町の文化財行政にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成１３年３月３１日

泉南郡田尻町教育委員会
教育長　　道浦達久

例　言

1．　本書は、泉南郡田尻町教育委員会が平成 12 年度大阪府市町村緊急地域雇用特別基金事業補助金を受けて実施した大阪府泉南郡田尻町域における遺跡分布調査の報告書である。

2．　調査は、国際航業株式会社に委託し、平成 12 年 10 月 12 日に着手し、平成 13 年 3 月 31 日に終了した。

3．　調査は全町域のうち、主に水田、畑など地表面観察可能な場所について、実施した。

4．　調査の実施に際しては、土地所有者をはじめとする多くの方々の協力を得られたことに感謝の意を表します。

5．　本書の執筆編集は、国際航業株式会社　武智国加、白澤知美、田尻町教育委員会　中野篤史がおこなった。

目　　次

はじめに

例　　言

第１章　位置と環境
　１．田尻町の位置と環境 …… 1

第２章　調査の経過と方法
　１．調査の経過 …… 1
　２．調査の方法 …… 1
　３．微地形解析の概要 …… 1
　４．分布調査（現地表面踏査）の概要 …… 2
　５．レーダー探査（電気探査）の概要 …… 3

第３章　各遺跡の概要
　１．田尻遺跡 …… 8
　２．夫婦池遺跡 …… 8
　３．船岡山遺跡 …… 8
　４．嘉祥神社本殿 …… 8
　５．船岡山南遺跡 …… 8
　６．藤波遺跡 …… 8
　７．吉見藩陣屋跡 …… 8
　８．羽倉崎遺跡 …… 9
　９．樫井西遺跡 …… 9
　10．林嵜遺跡 …… 9

第４章　まとめ …… 9

巻末資料
　資料１　微地形解析図
　資料２　分布調査地点（抜粋）
　資料３　レーダー探査装置の概要
　資料４　田尻町遺跡地図・遺跡地名表（Ｓ＝1/10,000） …… 巻末袋

報告書抄録 …… 巻末

図版
　図版１　　田尻町航空写真
　図版２　　分布調査実施状況・遺物散布状況
　図版３　　レーダー探査実施状況(地点 No.204)
　図版４　　レーダー探査実施状況(地点 No.338)

第１章　位置と環境

１．田尻町の位置と環境

田尻町は、大阪府の南西部、大阪湾海岸線のほぼ中央部に位置する。北東から南東にかけては泉佐野市、南西は泉南市に接し、北西は大阪湾に面している。町域の中央部を田尻川が、泉南市境を樫井川が流れている。町内を海岸線に並行して旧街道（ 孝子越街道 ）が通っており、それよりやや内陸部を府道堺阪南線（旧国道 26 号線）、南海本線が通る大阪と和歌山を結ぶ基幹交通の通過点となっている。本町を形成する地区は旧来の嘉祥寺・吉見地区と新たに埋立により誕生したりんくうタウン地区・空港島の４地区である。町域は、3.86ｋ㎡と大阪府下で最も小さく、人口も約 7,200 人と小さな町である。

第２章　調査の概要

１．調査の経過

田尻町内においての埋蔵文化財の発掘調査については、あまり多くなく調査面積も狭小なため各遺跡の性格については不明である。また、遺跡地図を見ると本町の中央部に遺跡がほとんどなく、泉佐野市、泉南市との境界に分布し、本町内に入って丸くまとまっているのが現状である。

本町が成立する過程の中で、人々がどのような痕跡を残しているか、より詳細な遺物の分布調査を実施し、埋蔵文化財の散布状況を把握することによって、今後の埋蔵文化財保護の基礎資料を作成するため、今回の分布調査を計画した。

２．調査の方法

調査の方法は、主として田・畑等の地表面の露出した地点の表面観察及び遺物の採集を行うことによって、遺跡の分布状況の把握に努めた。現地を踏査するにあたっては、500 分の１の道路台帳図を縮小した 1,000 分の１の地形図を使用し、田・畑等一筆ずつ、１班４名～５名程度の２班体制でくまなく踏査した。

踏査の結果をもとに遺物の採集が良好な地点、またはその周辺部について、地中の様子を推測するためのレーダー探査を実施し、大きな遺構等の分布の確認を実施した。

３．微地形解析の概要

調査は昭和 40 年に撮影された空中写真を用いた写真判読により行った。解析図を巻末資料１に示す。

町域の大部分は低位段丘に区分される。周辺地域のものと比較すると、いずれも明瞭な河岸段丘としては認められない。上流側からは河岸段丘として追跡することができるが、海岸付近で海岸平野に収斂しているため、境界が明瞭なものとはなっていない。

旧街道沿いで、吉見及び嘉祥寺の旧集落が分布する部分は砂州となっており、周囲より一段高くなっている。吉見では春日神社付近で比高差が最大となっており、南西側に漸減している。嘉祥寺では吉見ほど明瞭な比高を持つ部分は少ないが、北東寄りがやや高く南西側に高さを減じている。

砂州の前面(北西側)から旧海岸線までの間は海岸平野となっている。田尻川の両岸付近を中心に盛土などで地形が改変されたり、住宅の立地が進み、元の地形は見えにくくなっている。田尻

中学校や田尻保育所、田尻幼稚園などは、田尻川が砂州間を横切って形成した低地上の盛土部に立地している。また、町域東端の町道嘉祥寺羽倉崎線付近も、もともとは砂州間の低地や氾濫原であった区域に盛土がなされている。

町域内外とも、段丘や氾濫原中に旧河道がいくつか見られる。これらは周囲に比べわずかに低いことや条里が不規則に乱れていることなどから推定されたもので、各々の新旧までは判定できない。これらは条里形成後、樫井川の氾濫等により河岸段丘上を水が流れた際に形成されたものがほとんどと考えられる。いずれの流路も直線的な部分は少なく、むしろ曲流している。これは、傾斜が緩いためと、前面(下流側)の砂州に阻害され水が滞留することにより形成されたものと考えられる。この水が滞留する部分は、後背湿地と呼ばれる地形で泥質の地層からなるが、田尻町域では住宅が立地しており写真では判別できなかった。

町域西端部は樫井川の氾濫原で、堤防築造以前には増水等により水につかった区域である。この付近では、砂州を迂回するような旧河道が認められる。田尻川沿いには小規模ではあるが段丘を下刻する谷が形成されているが、水量が乏しいため明瞭な氾濫原の形成までには至っていない。

町内に見られるため池はいずれも旧河道などの凹地部を利用し、周囲に堤防を築造し形成されたものと考えられる。

4．分布調査（現地表面踏査）の概要

今回の調査対象とした地域のほとんどで中世から近世にかけての時代に属する遺物（埋蔵文化財）が田・畑などの表面より採集することができた。中世以前の遺物については、若干採集することができた程度である。

踏査によって採集された遺物の多かった地点を一部抜粋（巻末資料２）として掲載している。参照されたい。

５．レーダー探査（電気探査）の概要

現地表面踏査の結果、採集された遺物の数の多かった 4 地点について、レーダー探査を実施した。レーダーは電磁波を用いるタイプのもので、およそ 2～3m の深さまでの探査が可能なのである。レーダー装置の概要を巻末資料に示す。

１）調査地点 No.204

本調査地点は畑となっており、畝と畝の間でレーダーアンテナを走査することが困難なため、畝の上を対象にアンテナ走査を行った。

レーダー画像の解析結果から、表層は概ね 0.6m の厚さがあり、0.6m 以深は旧地盤と考えられる。表土中に表土と異なると考えられる混入物が層をなしている箇所も見られるが、対象物についての判定は困難であった。また、表土以深でも強い反射物が認められる箇所や比較的均質な地盤状況が伺える箇所があるものの、その深度は様々であり対象物を特定することは困難であった。

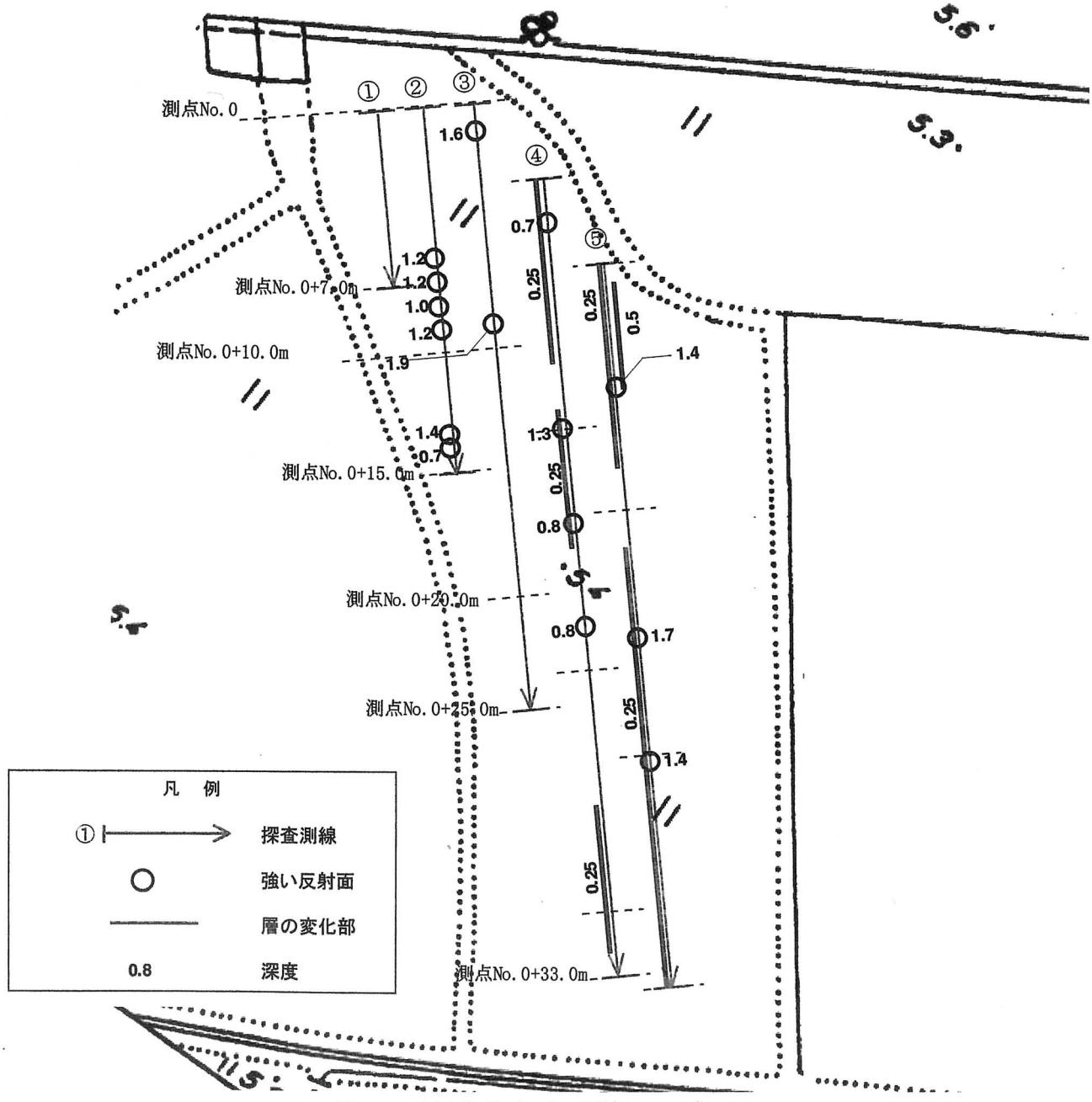


図１　反射物分布平面図(No.204)

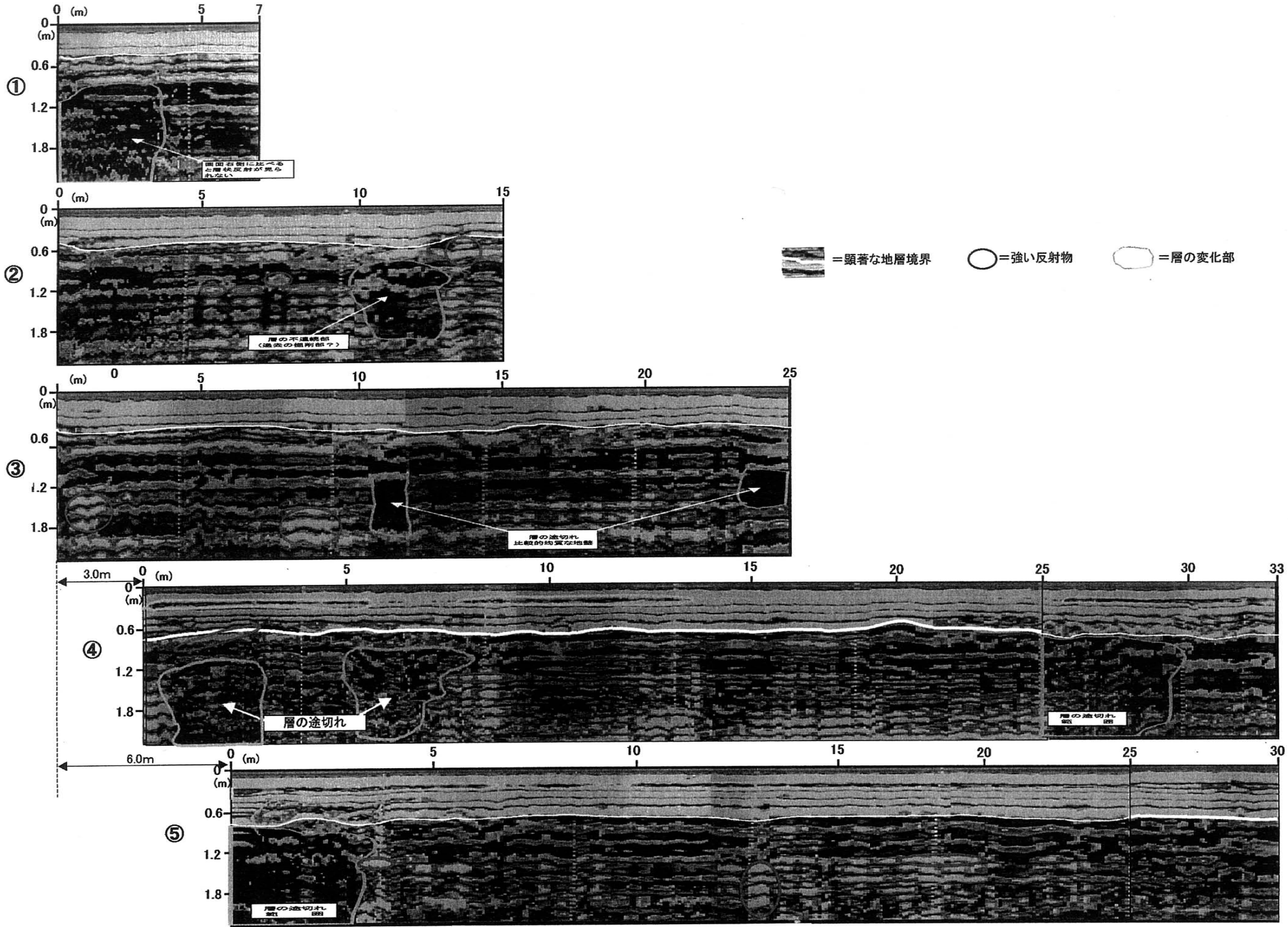


図２　解析結果測線比較映像(No.204)

2）調査地点 No.338

本調査地点も畑となっており、No.204 同様に畝の上を対象としてアンテナ走査を行った。表土の厚さは概ね 0.8m 程度で表土中には混入物が比較的多く見られた。また、表土以深でも強い反射面が多く認められる。特に測線 No.③の深度 1.2m 付近では、同一深度に間隔をおいて強い反射面が連続して認められ、測線 No.⑦でも深度 1.8m 付近に同様の反射面が認められた。

測線 No.⑧～⑩では、水平位置 0～4m、深度 0.6m 付近で層の変化パターンがよく似た箇所があり、地中内部に連続する同一層を捉えたものではないかと考えられる。これらは、通常の耕作範囲より深い部分と推定され、掘削等による土層の乱れであると考えられる。

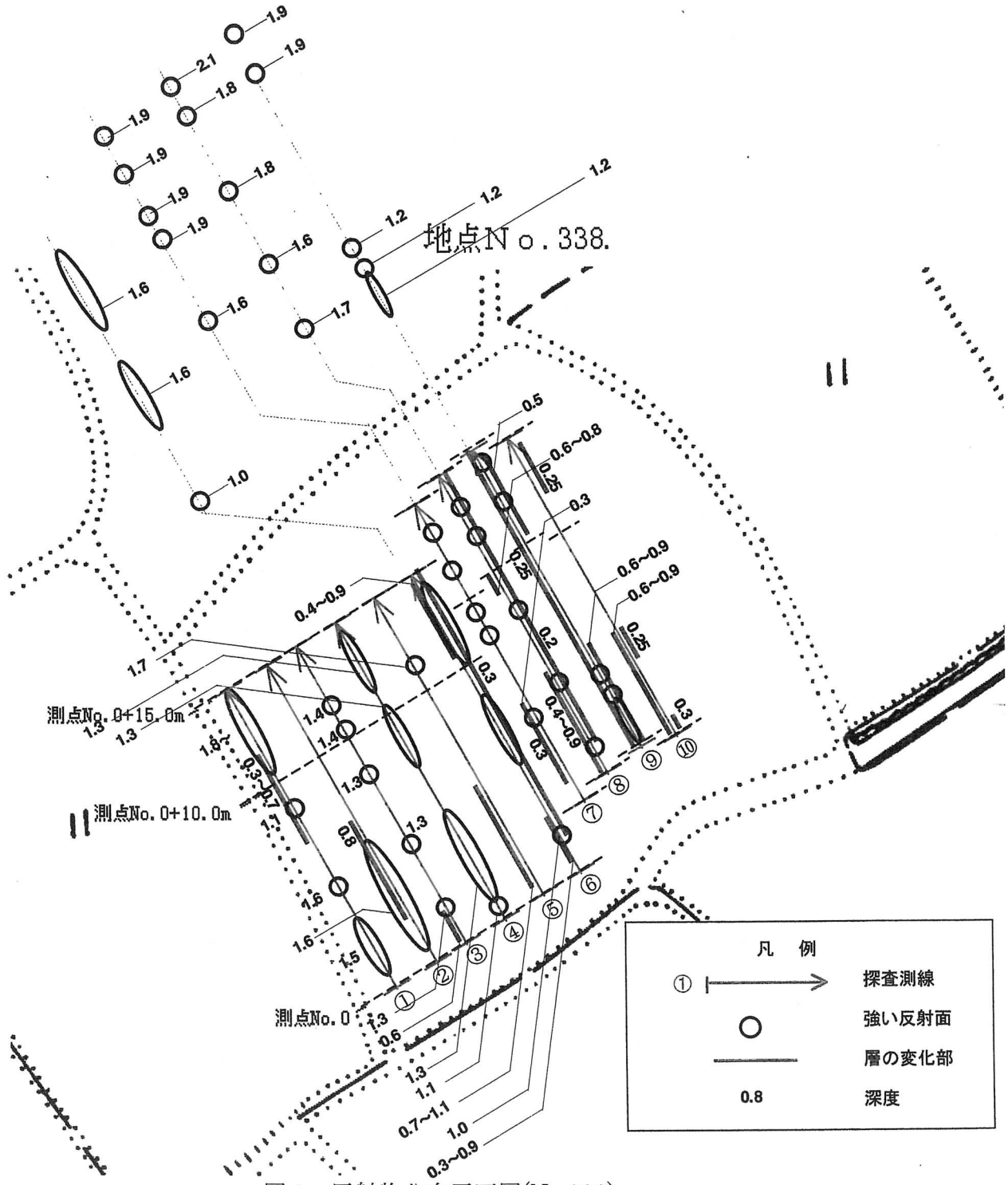


図 3　反射物分布平面図(No.338)

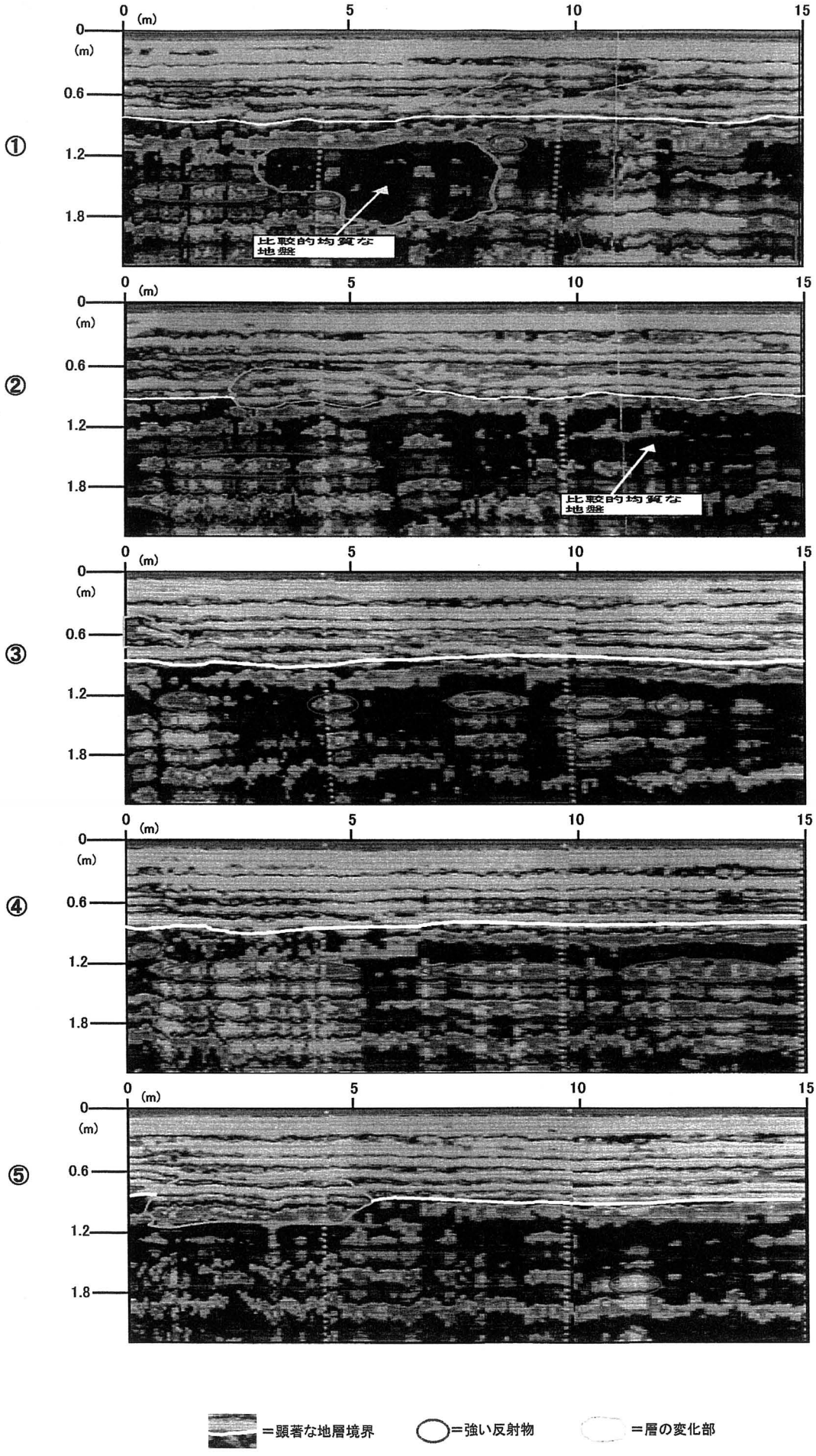


図 4　解析結果測線比較映像 1(No.338)

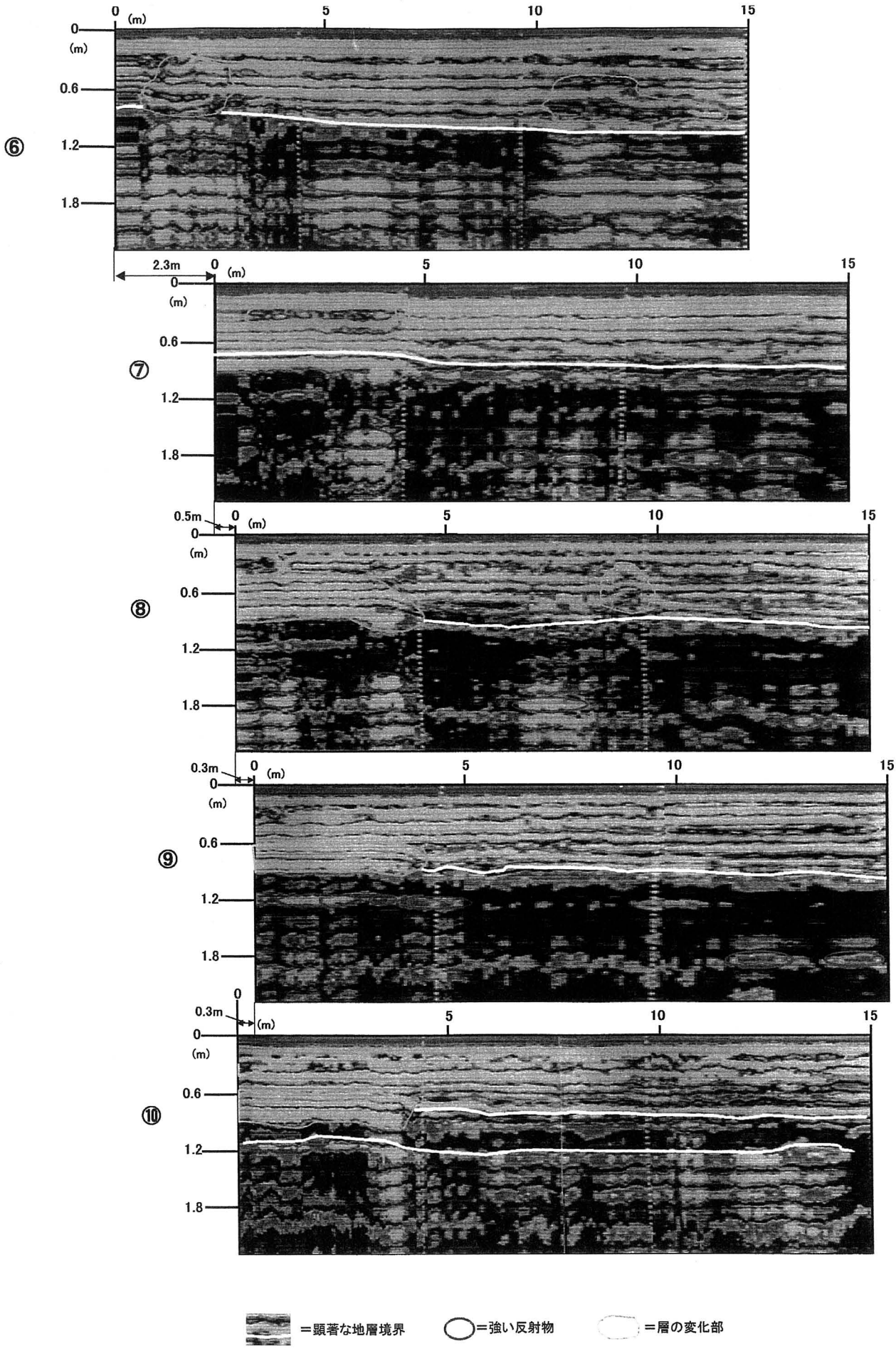


図 5　解析結果測線比較映像 2(No.338)

第３章　各遺跡の概要

１．田尻遺跡

田尻遺跡は、本町の中央部に標高 5m～7mにかけて位置する古墳時代から中世にかけての遺物散布地である。これまでに 11 カ所の調査を実施しているが、各調査の調査面積が狭小なため、遺跡の性格は不明である。これまでの調査で中世から近世にかけての粘土採掘抗や古墳時代から奈良時代ころと思われる小規模な溝などが、検出されている。須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・瓦などが古墳時代から近世にかけての遺物が出土している。

２．夫婦池遺跡

夫婦池遺跡は、田尻町の南部、泉佐野市とにまたがる、標高 7m～9mにかけて位置する弥生時代から古墳時代にかけての遺物散布地である。これまでに泉佐野市教育委員会による同遺跡の調査で溝状遺構、井戸、柱穴群、スキ溝が検出されている。弥生土器、土師器、須恵器、瓦器・陶磁器などが出土している。

３．船岡山遺跡

船岡山遺跡は、田尻町の東部、泉佐野市とにまたがる、樫井川の右岸に沿う沖積段丘上に位置する縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての遺物包含層がある遺跡である。これまでに大阪府教育委員会、泉佐野市教育委員会による同遺跡の調査で溝、土壙、柱穴が検出されている。弥生土器、土師器、須恵器、瓦器等が出土している。

４．嘉祥神社本殿

桃山建築様式を伝える江戸時代初期の神社建築物。大阪府指定文化財。

５．船岡山南遺跡

田尻町の南東部、泉佐野市とに広がる標高 8m～10mに位置する弥生時代～中世にかけての遺物散布地である。これまでに泉佐野市域で調査がおこなわれているが、遺構は検出されていない。遺物は土師器、瓦器が出土している。

６．藤波遺跡

田尻町の南部、主に泉佐野市に広がる標高 10m～12mに位置する中世の遺物散布地である。これまでに泉佐野市教育委員会による同遺跡の調査で、溝、ピットが検出されている。遺物は瓦器、土師器、陶磁器が出土している。

７．吉見藩陣屋跡

田尻町の北部、旧街道（ 孝子越街道 ）沿いの標高 4m～5mに位置する中世～近世にかけての遺物散布地である。これまでの調査では、粘土採掘壙などが検出されている。遺物は、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土している。遺跡の名称となっている吉見藩陣屋跡は、吉見村が天保 4 年より近江三上藩遠藤氏の所領となり明治 3 年に陣屋を三上村（現滋賀県野洲郡野洲町）より移したことに由来する。

８．羽倉崎遺跡

田尻町の北東部、主に泉佐野市に広がる標高 3m～6mに位置する古墳時代の遺物散布地である。

これまでの調査では、遺構は検出されていない。遺物は土師器が出土している。

９．樫井西遺跡

田尻町の南部、主に泉佐野市に広がる標高 10m～11mに位置する弥生～中世の遺跡である。これまでの泉佐野市教育委員会の調査で、弥生時代中期の方形周溝墓、中世の掘立柱建物址などが検出されている。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器が出土している。

10. 林嵜遺跡

田尻町の北部、旧街道（ 孝子越街道 ）沿いの標高 2m～4mに位置する近世墓地跡である。近代に紡績工場建設のために移転された。これまでの調査により土壙、スキ溝などが検出されている。遺物は、陶磁器のほか弥生土器、土師器が出土している。

第４章 まとめ

今回の調査の結果、微地形判読によって樫井川の旧河道など町の旧地形を推測、また調査対象とした地域のほとんどで遺物散布の確認、採集した遺物の多かった地点でのレーダー探査の結果により土層の堆積状況の把握などから、散布状況の多い地区を確認することができたことは非常に大きな調査成果であるといえる。今回の調査によって得られた膨大なデーターの蓄積は、今後、本町が埋蔵文化財保護行政を進めていくなかで、開発との円滑な調整のための基礎資料として貴重であるといえる。今後の調査の進展により遺構の確認等が行われることを期待したい。

（参考文献）

書　　名	編集・発行	発行年
『泉佐野市所在遺跡発掘調査概要Ⅰ』	泉佐野市教育委員会	1981.3
『昭和56年度　泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅱ』	泉佐野市教育委員会	1982.3
『大阪府文化財調査概要　1984年度』所収		
「田山遺跡発掘調査概要　付章　田尻遺跡の調査」	大阪府教育委員会	1985.3
『昭和60年度　泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅵ』	泉佐野市教育委員会	1986.3
『夫婦池遺跡発掘調査報告書』	泉佐野市教育委員会	1986.3
『昭和61年度　泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅶ』	泉佐野市教育委員会	1987.3
『昭和62年度　泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅷ』	泉佐野市教育委員会	1988.3
『昭和62年度　田尻遺跡・船岡山遺跡発掘調査概要』	大阪府教育委員会	1988.3
『昭和63年度　泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅸ』	泉佐野市教育委員会	1989.3
『平成2年度　泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会	1991.3
『泉南郡遺跡群発掘調査概要・Ⅲ』	大阪府教育委員会	1993.3
『田尻遺跡発掘調査概要』	田尻町教育委員会	1994.7
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要　平成6年度』	泉佐野市教育委員会	1995.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要　第22号』	泉佐野市教育委員会	1996.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要　平成9年度』	泉佐野市教育委員会	1998.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要　平成10年度』	泉佐野市教育委員会	1999.3

巻　末　資　料

資料１　　微地形解析図
資料２　　分布調査地点（抜粋）
資料３　　レーダー探査装置の概要
資料４　　田尻町遺跡地図（Ｓ＝1/10,000）・遺跡地名表

泉佐野市
消防空港分署
泉州空港中
田尻町
港南
泉南市
凡例
山地・丘陵地
河岸段丘
自然堤防
氾濫原・海岸平野
砂州
旧河道
盛土地・埋立地
大阪湾
りんくうポート北
りんくう全周複支
KIAC社宅
国際文流基金
関西国際センター
田尻スカイブリッジ
田尻漁港
りんくうポート南
田尻町公共下水道
吉見ポンプ場
田尻公民館
田尻幼稚園
田尻保育所
田尻中学校
尾張池
夫婦池
樫井川
至大阪
至なんば
至和歌山
N

資料1　微地形解析図

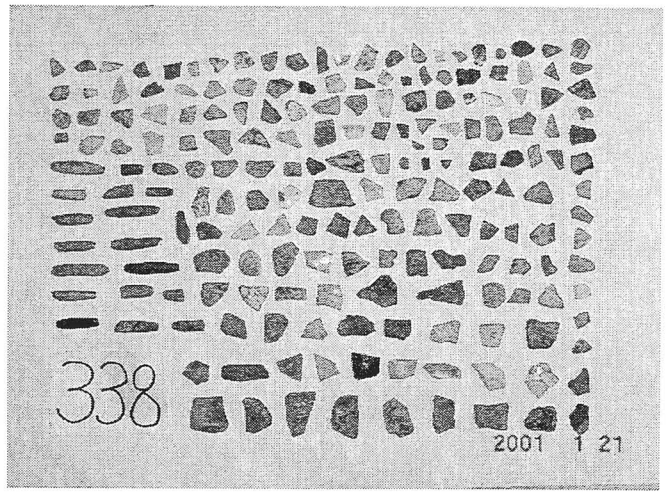
分布調査地点番号図（抜粋）

遺跡詳細分布調査地（抜粋）

Ｎｏ.	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
３３８	田尻町大字嘉祥寺地内					○	○

◆　現況写真

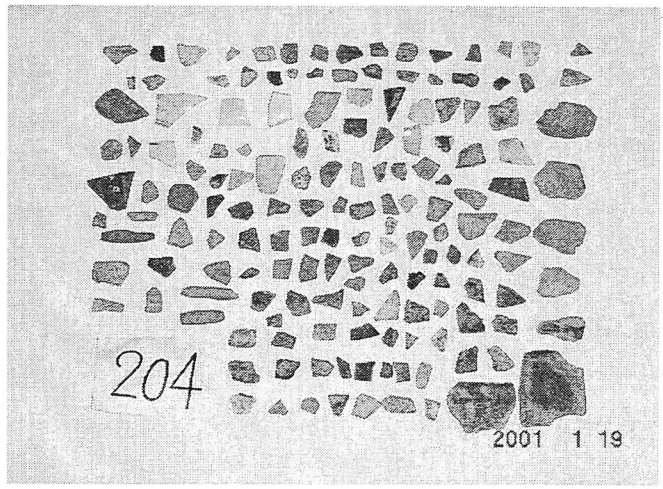
◆表面採集遺物写真



Ｎｏ.	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
２０４	田尻町大字吉見地内					○	○

◆現況写真

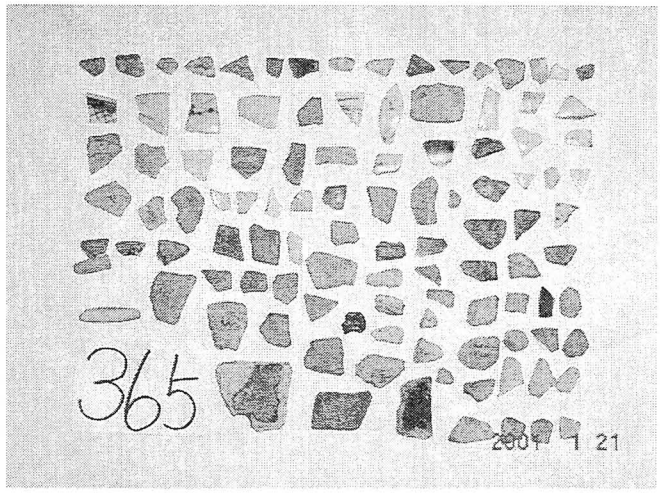
◆表面採集遺物



Ｎｏ.	所在地	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
３６５	田尻町大字嘉祥寺地内				○	○	○

◆現況写真

◆表面採集遺物

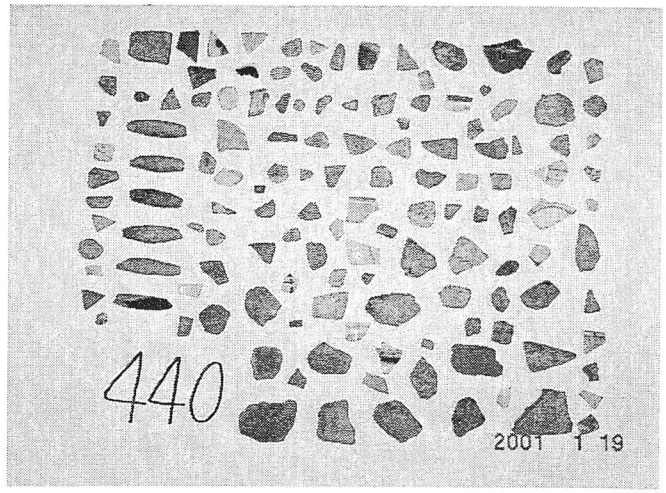


遺跡詳細分布調査地（抜粋）

Ｎｏ.	調　査　地	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
４４０	田尻町大字吉見地内				○	○	○

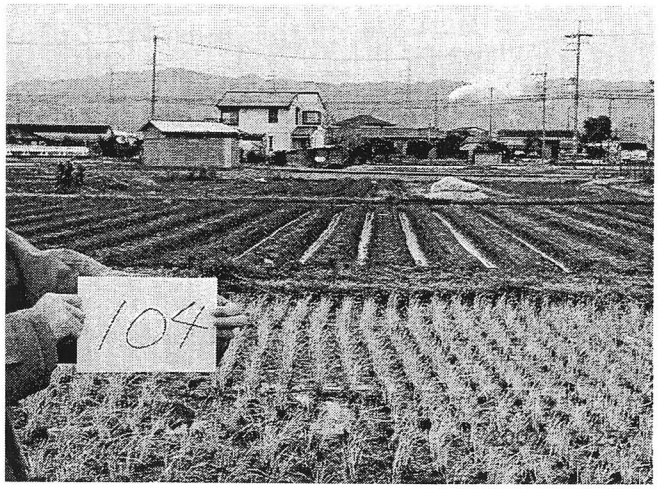
◆現況写真

◆表面採集遺物

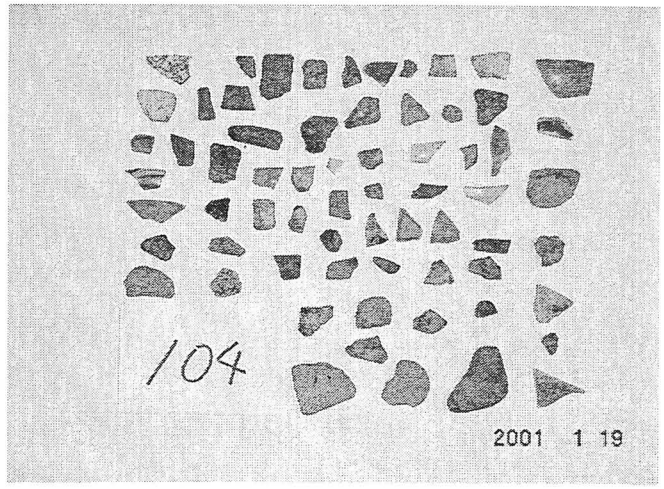


Ｎｏ.	調　査　地	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
１０４	田尻町大字吉見地内					○	○

◆現況写真



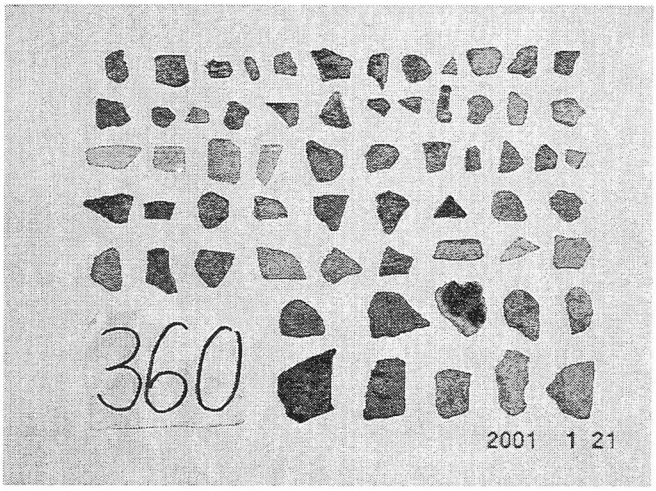
◆表面採集遺物



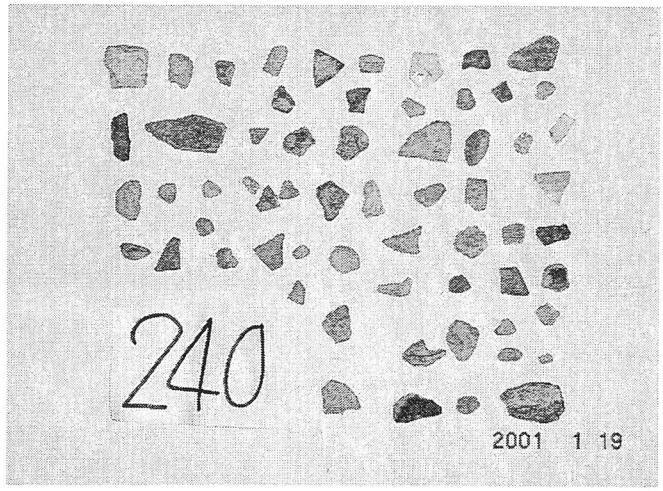
遺跡詳細分布調査地（抜粋）

Ｎｏ.	調　査　地	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
３６０	田尻町大字嘉祥寺地内				○	○	○
２４０	田尻町大字嘉祥寺地内						○
３７５	田尻町大字嘉祥寺地内					○	○
９５７	田尻町大字嘉祥寺地内				○	○	○
３７	田尻町大字嘉祥寺地内				○	○	○
８１０	田尻町大字吉見地内				○	○	○

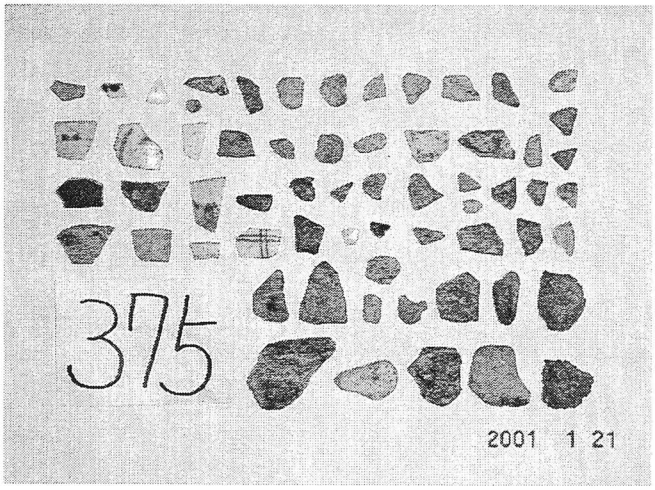
◆調査地 No.３６０採集遺物



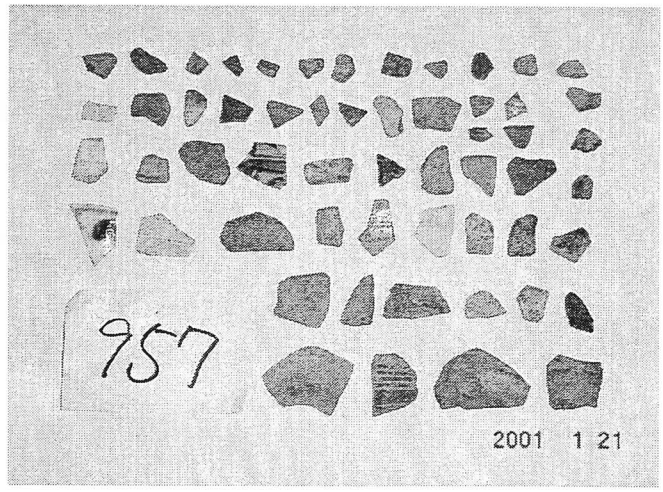
◆調査地 No.２４０採集遺物



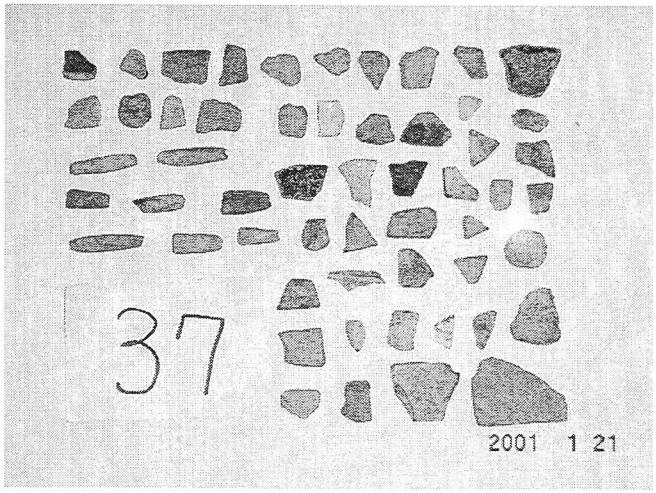
◆調査地 No.３７５採集遺物



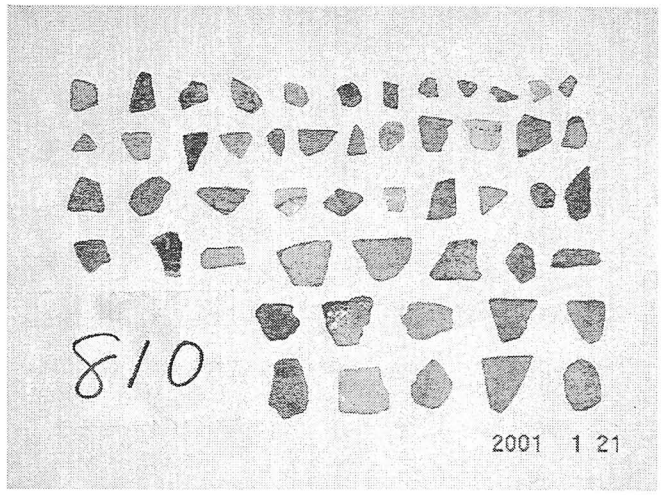
◆調査地 No.９５７採集遺物



◆調査地 No.３７採集遺物



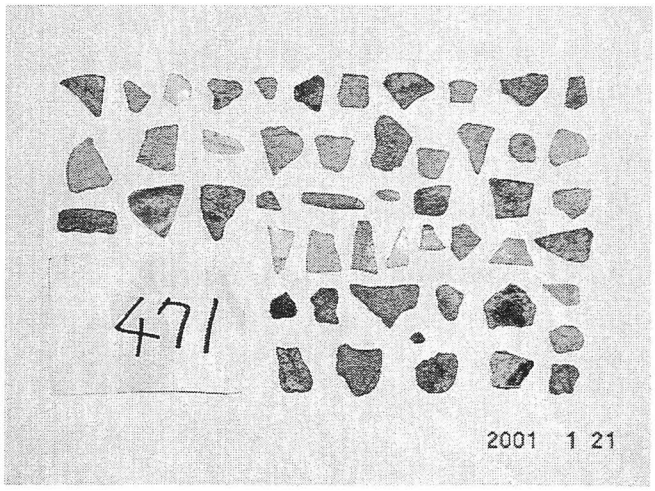
◆調査地 No.８１０採集遺物



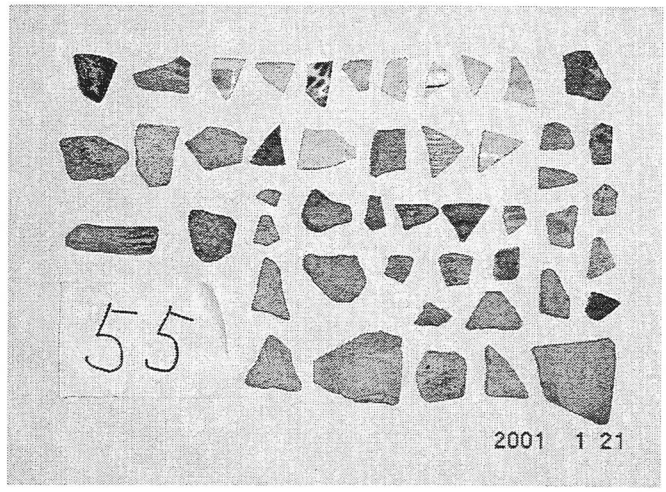
遺跡詳細分布調査地（抜粋）

No.	調　査　地	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
471	田尻町大字吉見地内			○		○	○
55	田尻町大字嘉祥寺地内				○	○	○
635	田尻町大字吉見地内			○		○	○
106	田尻町大字嘉祥寺地内					○	○
356	田尻町大字吉見地内					○	○
25	田尻町大字嘉祥寺地内					○	○

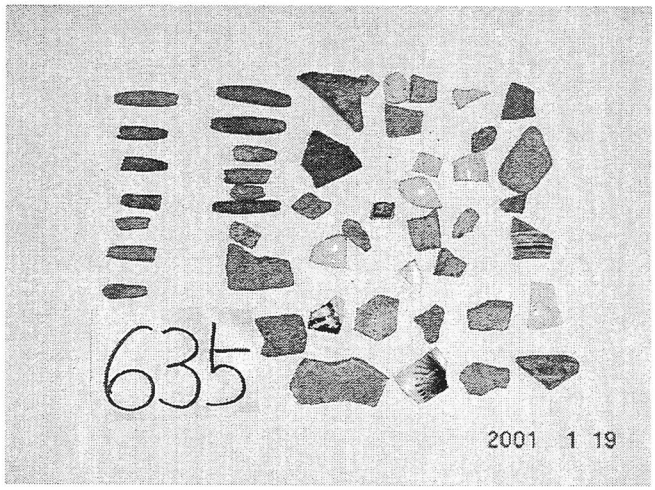
◆調査地 No.471 採集遺物



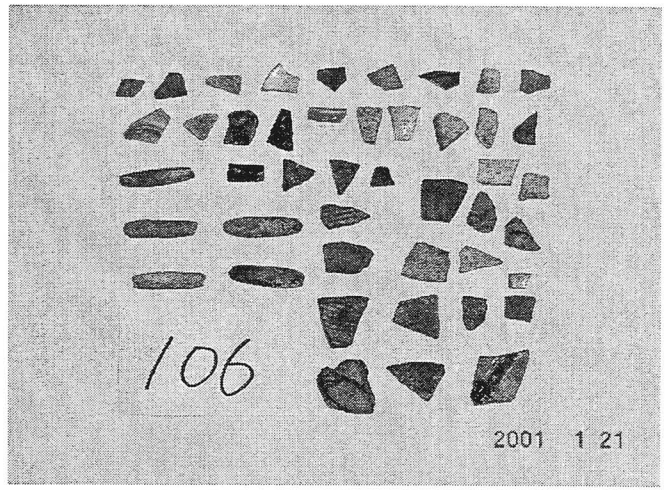
◆調査地 No.55 採集遺物



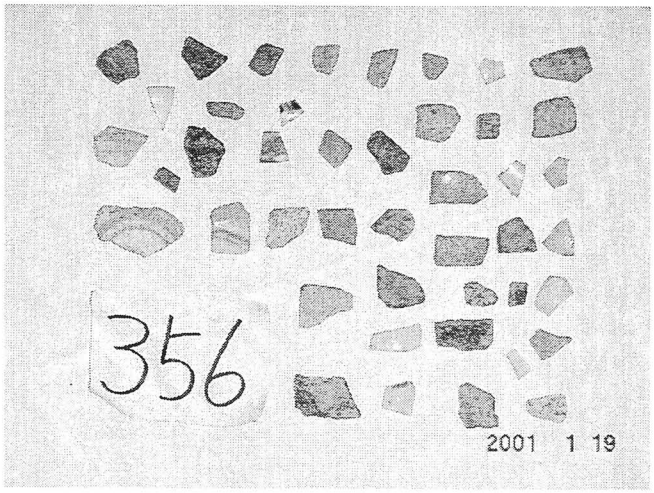
◆調査地 No.635 採集遺物



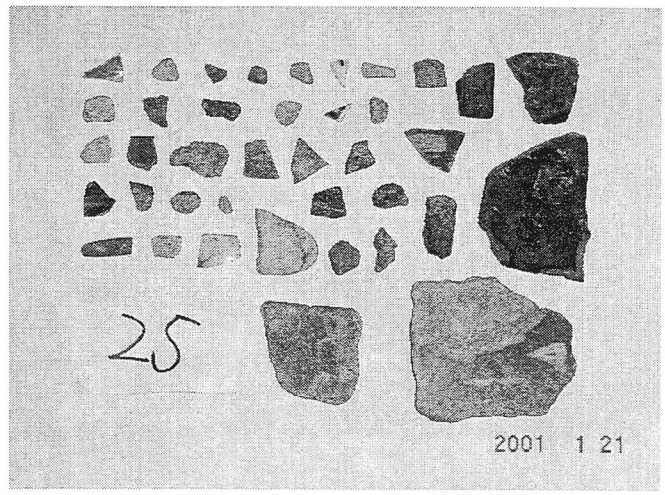
◆調査地 No.106 採集遺物



◆調査地 No.356 採集遺物



◆調査地 No.25 採集遺物



資料３　レーダー探査装置の概要

1）　概要

本装置は、地中に埋設されている配管類・空洞などの位置および地下浅所の土質状況などの探知を目的に製作されたもので、アンテナ部から地中に電磁波を発射し、地中の物標から反射する電磁波を受信して信号処理を行ない、アンテナ走向断面をモニター画面にカラー映像で表示することにより、物標の位置などを探査するものである。

地中レーダは、表１－１のＶＨＦ（100～300MHｚ）と呼ばれる超短波帯の電磁波を使用し,探査可能な最大深度は、電磁波の送信電力と地中における伝播損失によって決まる。このうち、送信電力は電波法の規制を受ける。地中の伝播損失は、主として地盤の導電率によって決まり、導電率が小さい程伝播損失は小さく探査深度は深くなる。代表的な比誘電率を図１－１に示す。図１－１によれば、氷や乾燥した岩盤では可能探査深度が大きく、湿潤状態の岩盤や粘性土では小さいことになる。

地中レーダ（ＪＥＪ－51Ａ型）の場合、関東平野の未固結堆積物（関東ローム層）における実験探査では、深度５ｍにある直径１０ｃｍ程度の球体を探知している。しかし、実質的な探査深度は土質・地表面の形状や地下水位などに左右され、沖積平野では２～３ｍ程度と考えられる。

表１－１　　電磁波の分類と使用アンテナ例

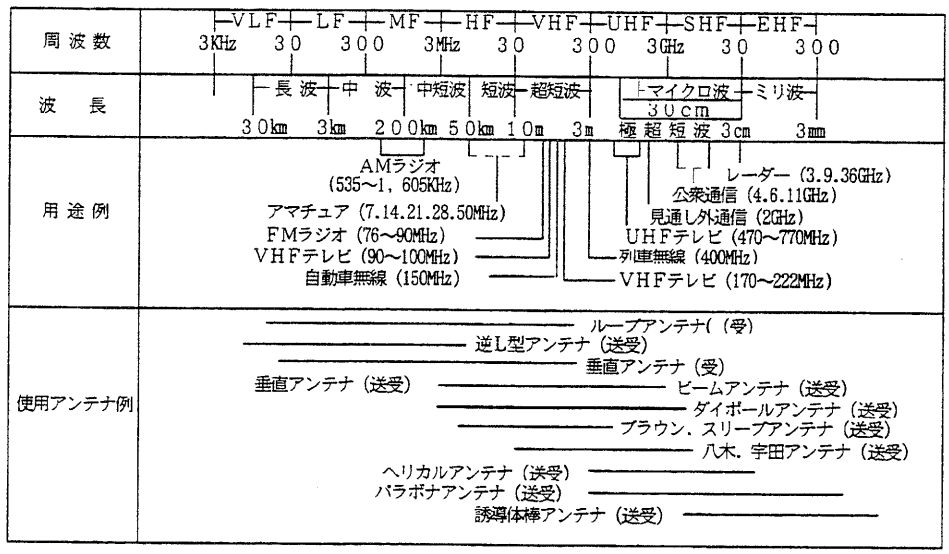
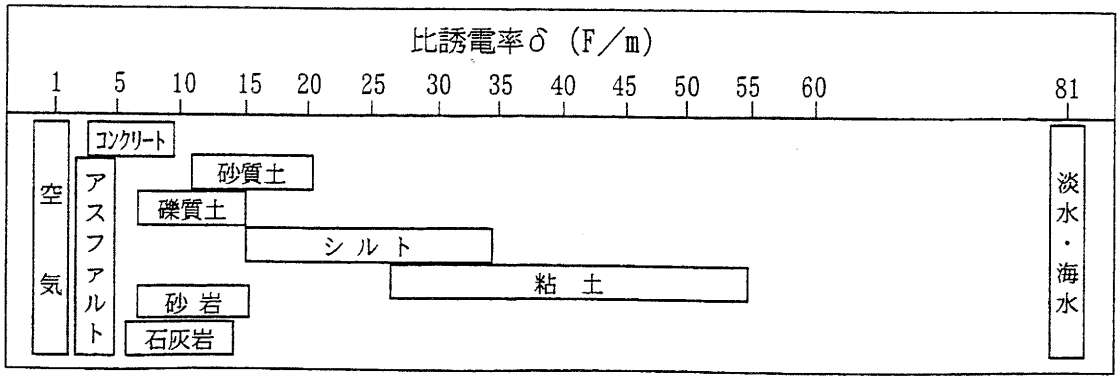


図１－１　　代表的物質の比誘電率δ（Ｆ／ｍ）



2）　作動の原理

本探査装置の構成は、図 1－2 に示すようにアンテナ部とディスプレイ部からなり、アンテナ部は電磁波の送・受信を行ない、ディスプレイ部では受信した信号を処理表示する。

電磁波をアンテナから地中に向けて発射し、その電磁波が土と異なる物質（たとえば埋設管・空洞等）の境界面で反射され、受信アンテナに到達するまでの時間から、反射物体までの距離を測定し、その反射強度に対応する信号レベルを色変換し、モニター画面に横軸を水平距離・縦軸を深度として表示している。

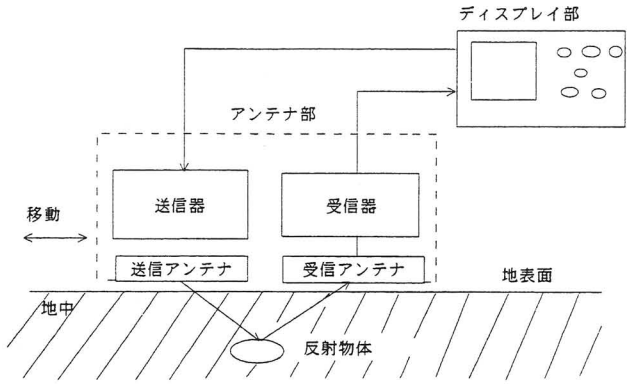


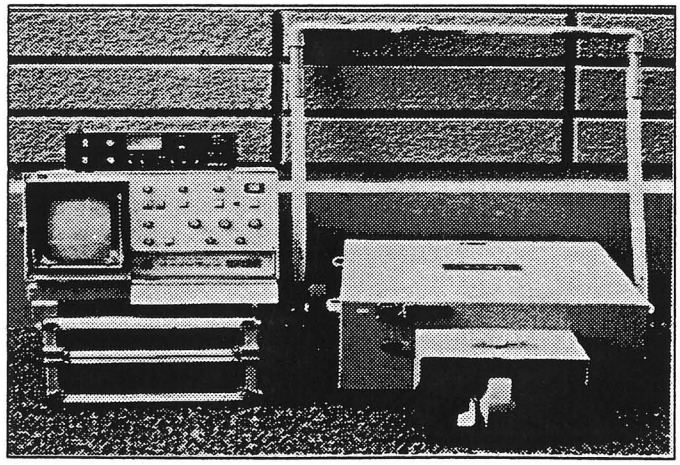
図 1-2　レーダ装置概念図

3）　地中レーダ主仕様

本調査に使用したレーダ探査装置の主仕様を表 1-2 に、外観写真を写真-1 に示す。

表 1-2　レーダ探査装置主仕様

項　目	仕　様	項　目	仕　様
アンテナ	ダイポール	消費電力	約 130VA
探査方式	レーダ（インパルス）方式	アンテナ部寸法	688(W) × 260(H) × 881(D)mm
送信出力	80VP-P　パルス幅約 2ns	ディスプレイ部寸法	430(W) × 250(H) × 500(D)mm
周波数帯域	50～400MH$_z$	アンテナ部重量	18.5kg
ディスプレイ表示	8インチ CRT カラー8階調	ディスプレイ部重量	22.5kg
発信出力	ピーク 128W	探査深度	2～3m
探査速度	1.6m/s（但し測定間隔 4cm）	電源	AC100V



写真－1　地中レーダ（JEJ-51A 型）

図　　版

図版 1

田尻町航空写真

図版２

分布調査実施状況

遺物散布状況

遺物散布状況

図版３

全　　景
（地点 No.２０４）

測線設定状況
（地点 No.２０４）

探　査　状　況
（地点 No.２０４）

図版４

全　　景
（地点 No.338）

測線設定状況
（地点 No.338）

探　査　状　況
（地点 No.338）

報告書抄録

ふりがな	たじりちょうないいせきしょうさいぶんぷちょうさがいよう
書名	田尻町内遺跡詳細分布調査概要
副書名	
巻次	
シリーズ名	田尻町文化財調査報告
シリーズ番号	第４集
編著者名	泉南郡田尻町教育委員会
編集機関	泉南郡田尻町教育委員会
所在地	大阪府泉南郡田尻町大字嘉祥寺３７５番地の１
発行年月日	平成１３年３月３１日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				(㎡)	
田尻遺跡 夫婦池遺跡 船岡山遺跡 嘉祥神社本殿 船岡山南遺跡 藤波遺跡 吉見藩陣屋跡 羽倉崎遺跡 樫井西遺跡 林嵜遺跡	大阪府 泉南郡 田尻町 嘉祥寺 田尻町 吉見					平成12年 10月12日 ～ 平成13年 2月28日		分布調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田尻遺跡	散布地	古墳～中世		土師器、須恵器、瓦器、陶磁器	分布調査
夫婦池遺跡	散布地	弥生～中世			
船岡山遺跡	散布地	縄文～中世			
嘉祥神社本殿	建造物	近世			
船岡山南遺跡	散布地	弥生～中世			
藤波遺跡	散布地	中世			
吉見藩陣屋跡	散布地	中世～近世			
羽倉崎遺跡	散布地	中世			
樫井西遺跡	散布地	弥生～中世			
林嵜遺跡	その他の墓	近世			

田尻町文化財調査報告　第４集

田尻町内遺跡詳細分布調査概要

２００１年３月３１日

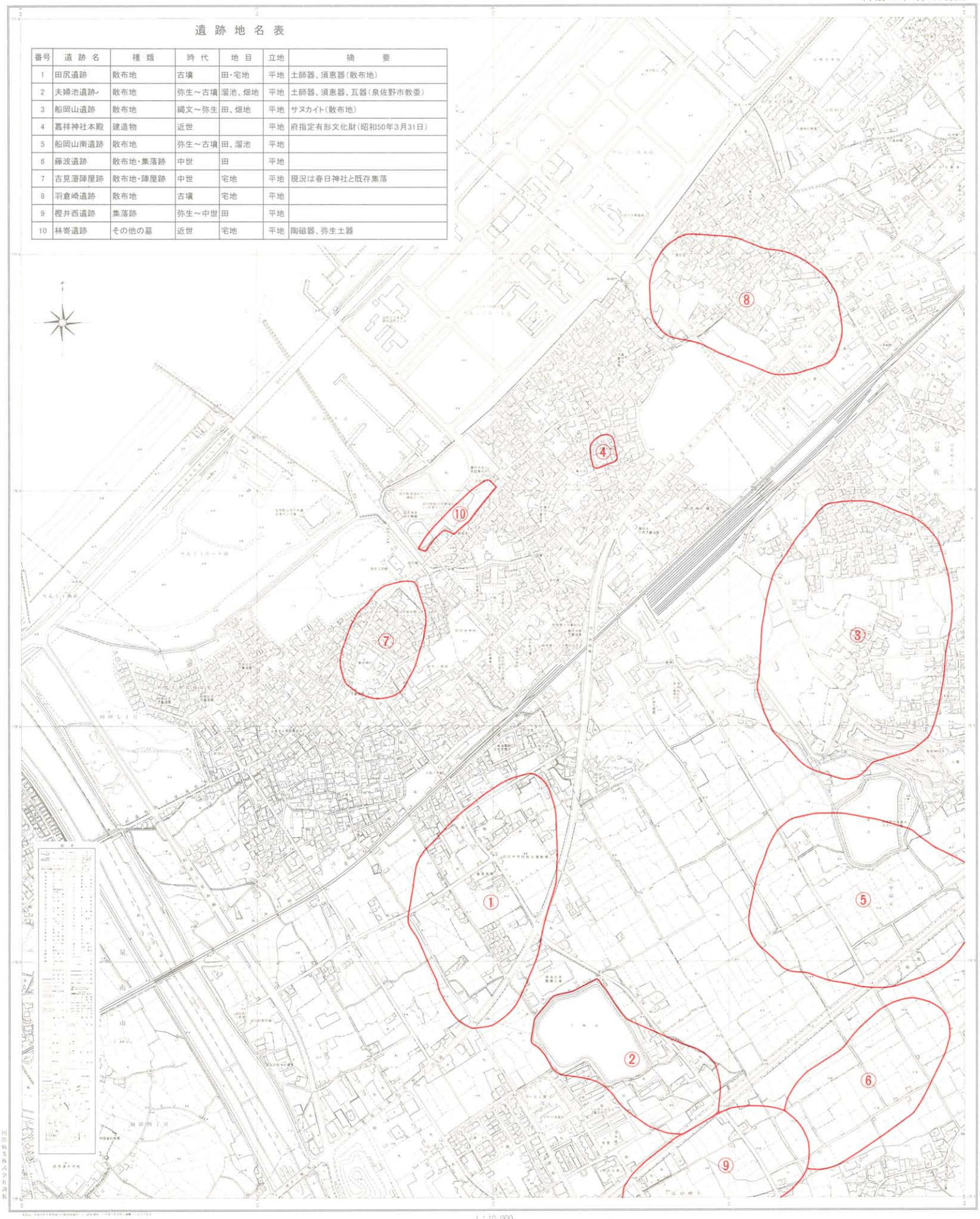
編集・発行　　泉南郡田尻町教育委員会
〒598－8588
大阪府泉南郡田尻町大字嘉祥寺 375 番地の１
TEL0724－66－1000（代表）

田尻町遺跡地図

（平成13年4月1日現在）

遺跡地名表

番号	遺跡名	種類	時代	地目	立地	摘要
1	田尻遺跡	散布地	古墳	田・宅地	平地	土師器、須恵器（散布地）
2	夫婦池遺跡	散布地	弥生～古墳	溜池、畑地	平地	土師器、須恵器、瓦器（泉佐野市教委）
3	船岡山遺跡	散布地	縄文～弥生	田、畑地	平地	サヌカイト（散布地）
4	嘉祥神社本殿	建造物	近世		平地	府指定有形文化財（昭和50年3月31日）
5	船岡山南遺跡	散布地	弥生～古墳	田、溜池	平地	
6	藤波遺跡	散布地・集落跡	中世	田	平地	
7	吉見潜陣屋跡	散布地・陣屋跡	中世	宅地	平地	現況は春日神社と既存集落
8	羽倉崎遺跡	散布地	古墳	宅地	平地	
9	樫井西遺跡	集落跡	弥生～中世	田	平地	
10	林嵩遺跡	その他の墓	近世	宅地	平地	陶磁器、弥生土器



1：10,000